

平成20年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立武蔵野北高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、室長、保健庶務部主任、教員1、事務職員1 計5名
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、室長、教務主幹、進路主幹、生徒主幹、保健庶務部主任、学年主任1 計8名
- (4) 協議委員の構成 PTA代表（会長1・副会長2）3、同窓会代表1、武蔵野市教育委員会2、小・中学校長（千川小・第4中）2、コミュニティ協議会代表1 計9名

2 平成20年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成20年7月3日（木）校長室、内部委員8名、協議委員6名
学校運営連絡協議会の趣旨説明、委員委嘱、委員紹介、役員選出、本校の現状と課題、意見交換
 - 第2回 平成20年11月27日（木）校長室、内部委員7名、協議委員6名
学校評価アンケート、学校の状況説明、意見交換
 - 第3回 平成21年2月13日（金）校長室、内部委員7名、協議委員7名
授業見学、学校評価アンケートの結果、学校の状況説明、反省と意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成20年11月27日（木）校長室、内部委員4名、協議委員3名
評価アンケート4種類（生徒・保護者・教職員・地域）の決定及び実施方の検討、授業公開の実施方法などの検討
 - 第2回 平成21年2月13日（金）校長室、内部委員4名、協議委員4名、
評価アンケートの結果検討、問題点の討議

3 学校運営連絡協議会における学校評価

- (1) 学校評価の観点
 - ・学校経営上、特に、教育課程、生徒指導、施設・設備などの現状を明らかにし、その改善を図る。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模【（ ）は、平成19年度】
 - ・12月
 - 生徒702人（683人）
 - 保護者516人（615人）
 - 教職員46人（教員39人）
 - 地域・住民95人（47人）
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習活動、生活指導、学校行事、部活動、進路指導、施設・設備、PTA活動など

(4) 評価結果の概要と考察 (学校への意見・提言内容)

・学校に入学して良かった(生徒76%、保護者92%)、学校に通うのが楽しい(生徒80%、保護者89%)というように、生徒及び保護者は、本校の学校生活及び教育活動は全般的に充実したものであると思っており、入学後の満足度は高い。

しかし、学校の教育方針(教育目標)の理解は低い(生徒21%、保護者68%)。入学時、年度当初の保護者会他、機会あるごとに、学校の教育方針を丁寧に説明することが重要である。

・授業の満足度については、生徒は内容49%、方法56%、進度41%が肯定的意見である。昨年の満足度は、内容54%、方法62%、進度45%であった。いずれも低下した。早急に授業改善を図る必要がある。そして、家庭学習の定着、個に応じた指導の充実を図る。

・学校行事についての充実感は、文化祭79%、体育祭76%、合唱祭74%である。多少減少している。部活動の充実についても減少している。伝統を継承しつつ、さらなる質的向上を目指し、充実させる。

・進路指導、生活指導、教育相談についての肯定的意見は、約40~50%である。学年が中心の指導から、生徒・保護者のニーズを見極めた分掌を中心とし、学校全体で組織的に推進することが必要である。

・学校施設の整備状況について否定的意見は、約50%と減少した。大規模改修の実施設計の開始が影響したものと評価する。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校評価を含む)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・学校評価アンケートの回収率が生徒96.7%、保護者71.1%、教職員100%までであり、幅広く意見を集約することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・授業改善に向けた校内研修を充実させる。
- ・生活指導、進路指導に関して、学校全体で組織的に取り組む。
- ・保護者、地域の方々への本校の教育活動の情報提供を工夫する。
- ・保護者に対して、マークカードの使用法について周知する。
- ・協議会、評価委員会がさらに効率的運営ができるように改善する。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・教職員の共通理解を深め、企画調整会議を中心に学校経営計画の実現を目指す。
- ・ホームページの工夫、積極的な情報発信、中学校訪問等で、募集対策・広報活動の充実を図る。
- ・PTA、同窓会、地域と連携した取組を推進する。

(2) 学習活動

- ・校内研修の充実等によって、指導方法・内容の改善を図り、生徒のさらなる学力向上を目指す。
- ・小テスト、課題を工夫して、予習復習の進め方を指導し、効率的な家庭学習の方法を提示する。

- (3) 特別活動・部活動
 - ・合唱祭、文化祭、体育祭などの学校行事はより一層の質的向上を目指す。
 - ・部活動と学習活動の両立に向け、メリハリのある学校生活を送るよう指導する。
- (4) 生活指導
 - ・学年によって差異のでない、全教員が同じ基準で生徒の指導に当たっていくような組織的な取組を展開する。
- (5) 進路指導
 - ・実力テスト、大学体験授業等を有効に活用して、生徒の進路実現の意欲をさらに喚起し、一步上の進路実現を目指していく。
- (6) 健康・安全
 - ・ゴミ分別の指導を継続し、生徒が健康で安全な生活を送っていくことができるような環境づくりを行っていく。
- (7) 教職員
 - ・学校経営計画に基づき、学校評価を日々の教育活動に生かす。

6 「学校がよくなった」と考える外部委員の割合

(1) 協議委員人数 9 人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 5 人

| そう思う | 多少そう思う | どちらともいえない | あまりそう思わない | そう思わない | わからない | 無回答 |
|------|--------|-----------|-----------|--------|-------|-----|
| 1 | 4 | 1 | | | | 3 |